

令和2年度 旭美容専門学校 第一回学校関係者評価委員会

会議報告書

日時 : 令和2年5月27日(水曜日) 14:00~

場所 : 旭美容専門学校 会議室 電話 059-228-2264

参加者 : 株式会社 杉新衣裳店 代表取締役社長 杉田真一様、美容室アンパー
吉村 太様、有限会社 山端鋏製作所 代表取締役 山端 公喜様、美容室
ウェーブ 長島 正美様、ヘア&メイク KOTOBUKI 中林 巳佳様
(学校より)長谷川雅敏校長 河村久美教務部長 (司会)中尾孝子事務長

報告資料 : 資料1 [旭美容専門学校学校関係者評価委員会] 自己点検評価表
資料2 [学校関係者評価 評価記入シート] 教育重点項目

次 第

1. 開会 配布資料の確認 (司会)
2. 校長挨拶

皆様には平素より大変お世話になっております。この度は本校、学校関係者評価委員会の最初の評価委員をお引き受けいただき、またコロナ禍で大変な中ご参加いただき感謝申し上げます。本校では、5月18日より分散登校をスタートし、全国の緊急事態宣言も解除されたことを受け、6月1日からは平常授業を始める予定です。

まだまだ予断を許さない状況ではありますが感染予防と健康・安全に配慮ししっかり進めてまいります。今日は、学校が平素から大変お世話になっている皆様から学校の発展につながる忌憚のないご意見をいただければと願っております。限られた時間ですが最後までよろしくお願い申し上げます。

3. 評価委員による自己紹介と学校参加者紹介

以下の順番で各委員が自己紹介をし、司会者は学校参加者の紹介をした。

1. 杉田 真一様 (選任区分 ①)
2. 吉村 太様 (①⑤/旭校サロン協力会前代表幹事)
3. 山端 公喜様 (①②)、4. 長島 正美様 (①②)、5. 中林 巳佳様 (①②)

()内は会則第3条の学校との関係項目

(学校より) 長谷川雅敏校長 河村久美教務部長 中尾孝子事務長

4. 学校関係者評価のすすめ方

校長が委員会規則にある当委員会の目的と役割と実際の評価の進行方法について説明。また、自己点検評価と教育重点項目(今年度教育目標等)に分けてそれぞれ評価していただきたいと述べた。

5. 委員長(議長)の選任・挨拶

会則に則り互選により杉田 真一委員を委員長に選任。ご挨拶の後、議事に入る

議 事

1) 自己点検・評価結果の報告と意見聴取

議長は学校より 3 月に行った旭美容専門学校自己点検評価の結果について報告を求めた。

大項目(1) 教育理念・目標の 1-4 項目、(2) 学校運営 1-6 の自己点検・評価結果について校長が報告。

大項目(3) 教育活動 1-10、大項目(4)学修成果 1-5、大項目(5)学生支援 1-7 の項目を河村教務部長が報告。

大項目(6) 教育環境 1-3、大項目(7)学生の受け入れ募集 1-3、大項目(8)財務 1-4、大項目(9)法令の遵守 1-4、大項目(10)社会貢献・地域貢献、(11)国際交流 1-3 については中尾事務局長が報告した。

そののち議長は委員に意見・質問をもとめた。質疑応答の結果は次の通り

[自己点検・評価結果へのご意見ご質問]

吉村委員; (11)留学生が卒業し日本の美容師資格をとればそのまま日本で就職できるのか？

校長: 現在は就労ビザの関係で働けない状況であり法整備にむけ活動していきたい。

長島委員;外国とつながる学生たち(永住権あり)の人たちの本校への進学は増えているのではないか?

校長: 外国とつながる学生たちの進学は増えており、学園祭でゲスト賞をとった学生もそうだが、おしゃれで美容に強い興味をもつ子が多いと思われる。

吉村委員; こうした留学生や外国とつながる学生たちが多いと、異文化や多様な価値観にふれることで刺激があり学生たちの見識を広げるという大きな効果が期待できる。

山端委員;(3)6年前の卒業生である娘と話をしてきたが、学校の2年間がとても楽しく過ごせ、先生の指導が良かった。おかげで今もスタイリストとして働いていると感謝していた。

山端委員;(6)学校から、美容ハサミを納める際に言われた事は「美容を目指す学生たちが初めて手にする大切なハサミであるという事を忘れずに仕上げてほしい」「安かろう悪か

ろうという道具はいらない、長く現場でも使えるものを」そんな注文に悩み抜いて開発したことを今も覚えている。教材に関しても他校には無いこだわりがある。

長島委員;(5)(10)資料を見て感じたことは、求人が特に県外からの求人が多いことに驚いた。また津まつりや老人ホームでのボランティア活動や広報も熱心に行われている。せっかくサロン協力会もあるので県内の美容室や美容師さんとの直のつながりを使って小学生や美容に興味ある人達へ美容の楽しさをアピールする機会を持ったら良い。学生を増やして地元で働いてもらうことは業界のためになるのでサロン会のスタッフにはいい子がたくさんいるので動員してイベントを実施すればいい。みんなで活性化していきましょう。

中林委員:(全般)資料を見て、これだけのことをされていて評価部分を完璧にされている。県外にも人材を送り出していて素晴らしい。

中林委員: (1)(3)就職して途中でやめている学生の離職を防ぐには、「ここ(卒業・免許取得)で終わり」ではなく、「ここからが始まり」という意識(決意)をもたせて社会人として送り出すことが大切では?カリスマブームで騒がれたときもあったが、現実は一つ一つを積み上げる地道ですぐには評価してもらえない業界である。卒業後も必要な勉強を続けな

がら頑張っている人もいるが、そうでない人も多く、その差が激しいように思う。お客様も本物志向が高まってきたので偽物では通じないことを知ってほしい。

中林委員： (7)旭美容専門学校は学費も名古屋等の学校に比べるとやすいと感じる。

吉村委員： (1)(3)2年間のうちにどうモチベーションを与えていくか？ 未完成の部分があるから人は磨かれると思うので完成形に仕上げることにこだわりすぎず、尖っていてもいい荒削りでもいいので自分らしさを残して卒業させてほしい。

校長： 卒業して頑張っている子もたくさんいて、このコロナ禍の中でも最近、自分のこだわりの詰まった美容室をオープンさせた若い卒業生がいる。一方、退職して全く違う仕事をしているものもたくさんいる。退職しても業界にとどまって違うお店でキャリアを積む事はいいと思うが。

(離職しない学生とは)

杉田議長： (1)(3)会社の考え方や求める人材像と学生本人がどんな社会人になりたいのか？ どういった生活を求めているのかが、合致していないと就職しても続かない。ですか

ら、両者で価値観・仕事観・生活観の認識を徹底してすり合わせる事が大切。学校で幅広い技能を積んでこられることは十分理解できるが、実際社会に出るといろいろな人との関わりがあるので、コミュニケーション能力はもちろん接客業となれば会話力やいろんな幅広い知識も必要となってくる。自信を持って人と接する事ができる能力が必要。採用してから勉強してもらうこともあるが学生の中に基本的なことはクリアーしておいてほしい。

杉田議長： (1)(3)最近では真面目でおとなしい人が多い、それは悪いことではないが「よし、こうやって行こう」と創造的に自己主張する人が少ない。こうしたい、ああなりたいというバイタリティがほしい。学校を出るまでに自信をもたせて、自分は世間に社会に役に立つという気持ちを持っていただければいい。

(4)インターンシップもたくさん来ますが、そこから入社に繋がる人も多い。現場を知ってきってもらうことは大切。現場の中で学ぶことはたくさんある。一日も早く現場を知るが大切ということでこうした取り組みをされていることも理解できた。

吉村委員： (3) (4)落ちこぼれを作らない教育も必要だし平均点 70 点という考えもいいが、ゼロか 100、なにか一つに優れているそんな個性もこの業界はありではないか?カラーを一筋でやり続けるとか?止めずに続けていけばいい。

(どんな人がやめる傾向がありますか?)

河村部長: 退学する学生の主な理由は3つ、1.コミュニケーションが苦手 2.技術についていけない 3.学校へ入ってみたら思っていたものと違った(もっと派手な世界だとおもっていた等)の3つです。接客業だからコミュニケーションが必要だといって押し進めても、なかなか自分の殻を破ることが出来ない子が増えてきた。昔はやんちゃな子が多かったがいまはおとなしい子多くて考え込んでしまう子が多い。当時はそんなやんちゃな子達がりきって成功しているという事例がよく見受けられた。

中林委員: (3)(4)今は当時のような強い指導は出来ない。十人十色、捉え方も違うからそれに合わせて指導するのは難しいと思う。

吉村委員: (3)(4)活躍している人や業界へ残ってくれる人材が増えていけば美容へ進みたいと思う高校生の背中を押してくれる人が増えてくるのではないか。

中林委員: クラス生徒数は何人ぐらいですか?担任の先生はひとりでみれますか?

河村部長: 約 30 人です。初めて行う授業や新しい技術に進むときはサポートが必要なので、サポート教員が入りみんなに目が行き届くようにする「マスト授業」というやり方で、基本的に全員が理解した上で先にすすめるよう工夫しています。しかし、おとなしい子がわからなくても自分から申し出てくれ無い等、難しい部分が多い。

中林委員: (3)授業中の態度についてはどうですか?(寝ている学生など)

校長: 講師の先生方に工夫して取り組んでいただいています。別紙、学生アンケートをご覧ください。こちらは学生たちがすべての授業について 5 段階で評価するもので、講師・教員はこの結果を踏まえて工夫しています。しかし学科が苦手な学生が多いのは事実です。

河村部長: 学科授業でもパワーポイントなどを使っていただける授業、画像などを示していただける比較的集中しやすいが教科書を読んで板書という授業では厳しくなってきた。指示されたことはできるが自分で考えて前にすすめることが苦手な子が多い。

中林委員: (3)小さい子を育てるわけではないが基本的なことからこつこつと、何度もわかりやすく、褒めて伸ばす指導をしてあげてください。現場に出たらお客様にいい子が

と評価される人間になってもらわないといけない、人間力もこつこつと高めていってください。

2) 学校関係者評価の判定(評価)

議長は意見も一通りお伺いしたので、自己点検評価・評価表に評価をお願いしたいと述べ、事務局から記入方法を説明させた。

その後、各委員は自己点検評価・評価表(資料1)により評価の判定を行った。(適切もしくは不適切いずれかに○印を記入)

また、議場で発言できなかった追加意見に関してコメント・シートに記入した。※

なお、評価結果に不適切とする記入は無く、全委員より学校関係者評価は適切と判断された。

[コメント・シートによる追加意見]

大項目 (1) 中項目・・・4

- ・人間力をしっかりと身につけてほしい
- ・約束を守る 時間を守る 挨拶をする等
- ・凡事徹底 誰にでも出きることを誰にもできないほど

続けることの大切さを学んでほしい

大項目 (4) 中項目 3

- ・異業種や各分野で活躍している人からの学びの場であっても良い
- ・インターンシップをより活用してみてもどうか

3) 教育重点事項への評価及びご意見ご質問

続いて議長は教育重点事項について、学校(校長)から説明を求めた。

校長は事項書 6 頁 7 頁にある新年度事業計画により令和 2 年度教育目標「一流を育てる」と重点目標 1 の「新時代・変化への対応」と重点目標 2「教育改革・機関要件(減免・給付)対策」の内容について説明した。そののち議長は各委員に評価シートへの評価及び意見・質問を求めた。

[教育重点事項への評価]

各委員が令和 2 年度教育目標及び 2 つの重点目標の評価シートへ評価結果に記入し、評価結果のコメント欄にコメントを記入した。

評価結果に関しては全委員が適当に○印をし、適当と評価した。

評価シートへの記入事項(コメント)は別紙2による

教育重点事項へのご意見ご質問

杉田議長： ここからはご意見やご質問を発言願います。

長島委員： こういった(減免・給付)制度を高校の先生たちは知っていますか？

校長： 昨年、文科省から公告されたので高校の先生方にもしっかり勉強していただいています。

吉村委員： 「一流を目指す」美容室の独立だけに固執するより美容というジャンルは多岐に及ぶ、いろんな方面で活躍できる人材をめざしてもいい、自分の可能性を伸ばして欲しい。「新時代・変化への対応」これからの時代は好きなものが有るから美容学校に来ているのだからすべて平均点というよりも一つで 100 点を目指す好きのものをとことん伸

ばすというのもありだと思ふ。

山端委員： 製造業なので美容室でのサロンワークの内容は詳しくわからないが、地元のオーナーはもちろん都会のカリスマと呼ばれる先生たちともお付き合いがある。お付き合いの中で感じることはオーナーの考え方は人それぞれ色々であるということ。学校でどれだけきっちり教えてもオーナーの考え一つ卒業した生徒の行く道が決まってしまう。学生が就職先のオーナーを選ぶことは難しいと思うので、学生の間(就職活動間)に人を見る確かな目を養うことも教育の一環だと思う。あとは就職したら終わりではなく、卒業後もどうなったかを気をつけて見ていく。この点に関しては学校として既にやっていただいていると思ひますが。

杉田議長： 卒業後の後追ひに関して、その後の活動をどうしているか、就職したけれど止めてないか等細かい所まではされてないのですか？

河村： 全部は把握できてないです。インスタや学校を訪ねてきた同級生からの情報などと限られている。

杉田議長： 学生の集いや同窓会を定期的にするとかは無いのですか？

中林委員： 仕事のことだけでなく他愛のないことをディスカッションできるような集う機会があってもいいのではないか？

校長： 今はそうした場は設けていませんが、できればいいと考えております。

長島委員： 一流とはなにか？を考えていくとプロ意識を持たせると言うことだと思う。義務教育では人間として必要な教育を学ぶが、美容師はお客様がいる現場で働く、工場でものを作るのとは違う。お客様と直に接して技術を提供する。お客様に対するプロ意識とか技術に対するプロ意識など、一流を育てるならぜひプロ意識をもたさなければならないという考え方をに入れて欲しい。これがあれば、壁にぶつかり挫折しそうな時も乗り越えることができる。そしてその後に色んな一流が生まれてくるのではないか？

あと重点事業のやり方や進め方はすごく充実していると思う。

中林委員： 本当の美容師とは？というしっかりしたプロ意識を持たせてほしい。今の子は恵まれている。マツエクやカラー、着付け等得意なことをいかして働くという考え方もあるが、どちらにしろ中心軸がぶれない自分というものを持ってほしい。現場に出てお客様に求められる人材となることが根本。免許があるだけでは意味ないし、お客様から評価さ

れて初めて一流。そうなるには技術もちろん、人間力が必要だと思うので先生方には粘り強く指導していただきたい。私達も含め指導する側にある先生や大人も勉強を続けていくことも大切だと思う。

杉田議長： 婚礼も美容も幸せな時間を提供するという恵まれた仕事である。そういった意味では働く・従事する人の心が豊かであって人を楽しませようとか喜んでもらおうという純粋な気持ちを自分の中で養っているかどうかは先ずあると思うから、皆さんがおっしゃられるのと同じで、技術や専門技術と行ったものがあるというのと同じように、人の個性や魅力、人間力といったものを常に磨いていくこと、学生から社会人になってもっともっと勉強して自分を高めていくんだということ。そういう事を自分の喜びや楽しみに思える人が社会に求められると思う。

そうした社会人としての基礎や基本を作るのは学校だと思うので、色々な意味で将来に向けてのその人のあり方や考え方をしっかり築ける人材を育てていただければと思います。

杉田議長； これで評価は終了させていただきますが他にご意見があれば

校長: 本日はありがとうございました。貴重なご意見をいただきましたので学校運営に活用させていただきます。また旭美容専門学校のHP情報公開のページにPDFにして掲載させていただきますのでご了承ください。次回以降の開催は未定ですが、次回お集まり頂く場合はする場合は今回同様、委員の先生方の日程調整をして開催しますので2年間よろしくお願ひ申し上げます。

杉田議長; 皆様のご協力のおかげで令和2年度旭美容専門学校第一回学校関係者評価委員会の議事を終了することが出来ました。皆様のご協力を感謝します。司会者にバトンタッチします。

閉会の言葉

司会; みなさま、大変貴重なご意見をいただきありがとうございました。今後の教育指導に取り入れ、教職員一丸となって地域に密着した専門学校づくりに取り組んでまいります。今後ともご指導のほどよろしくお願ひします。それでは、これをもちまして旭美容専門学校第一回学校関係者評価委員会を終了します。